

私が普段、税を意識する機会があるとすれば、消費税を払ってものを買うときくらいである。これまで私は税について、その商品価格にプラスして払わなければならないため、なんだか損した気持ちになっていた。「払わなくていいなら払いたくない」。それが本音だった。

しかし、今回この税の作文を書くにあたって、税について初めて詳しく調べてみた。すると、様々な税が世の中に存在することがわかった。消費税や所得税、酒税や自動車税などだ。今まで知らなかった税についても知り、いろいろな場面で税を支払っていることに驚いた。それでは、これらの税はどんなものなのか、私の生活に置き換えて考えてみた。

私の「お小遣い」を社会人でいう「収入」とする。お小遣いは月千円だったとしても、仮に二十パーセントの所得税を引かれると、私の手元には八百円しか残らない。けれど、納めた二百円は、幅広く私達の生活に役立てられる。例えば、学校の机や椅子、教科書。病院の医療費など。現在の私の生活と切っても切り離せないものばかりだ。

「酒税」を「ジュース税」としたら。コンビニや自販機でジュースを買うたびに、消費税とはまた別に税を払う必要があり、購入者の負担が増える。しかし、それでジュースを買うことが減れば、人々の健康的な生活に繋がる。また、もし買われる量が減らなかったとしても、その集まったお金は社会保障費などとしても使われる。例えば、年金や福祉サービスの費用などだ。お年寄りも、それ以外の人も、安心して暮らすための大切なことである。

「自動車税」を「自転車税」に置き換えてみたら。私は自転車通学生なので、いくらか税を納めなければならなくなる。しかし、その納めた分のお金は、道路の整備や信号、カーブミラーの設置費用に使われる。そうすると、交通事故防止に繋がる。

このように、私達の生活は税に支えられている。逆に、税を納める制度がなかったら、世の中は大変なことになる。医療機関の整備が十分にされず、困ったときに頼れなくなるかもしれない。道路や橋が壊れても、修理できずそのまま放置されるかもしれない。犯罪が起きても取り締まる警察官がおらず、安心して暮らせなくなるかもしれない。そのような事態を防ぐために、税はある。税は、私達の生活や未来を明るくするために、そして国を守るためにある。これから私は、自分が税の恩恵を受けていることを忘れず、正しく税と向き合っていきたいと思う。